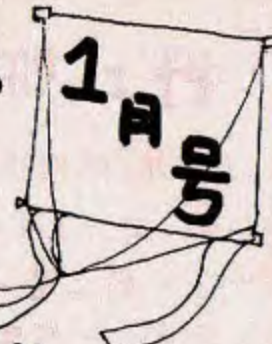




わつなぎ



新婦人 浜松支部 赤ちゃん・親子リズム小組通信

2017.1
発行 新婦人リズム部
TEL&FAX
053(464)9891



あけまして おめでとうございます



みなさん、どんな初夢を見られましたか？ 一富士 二鷹 三茄子 といいますが、すてきな夢なら、どんな夢でも、おめでたい夢ということにしましょう！ 夢は大切です。子どもたちもそれぞれの夢を抱いて、元気に成長してほしいと思います。

いい1年でありますように♡



寒い時期のリズム

❁ 薄着のすすめ ❁

厚着があると動きにくく、汗をいっぱいかいてしまうことがあります。ホールの中は暖房が効いていて暖かいので、走り回っている子どもたちの背中汗でしどりなんてことも。薄手のものを重ねて着て、扱いだり着たりがすばやく簡単にできるといいなと思います。

❁ 手洗い、うがいをしっかり ❁

かぜやインフルエンザが流行する時期です。リズムで遊んだ後や食事の前には手洗い、うがいをしっかりして予防しましょう。そして、リズムに元気な顔を見せて下さい。YouTubeに幼児の手洗い習慣をつけようと「あわあわ手洗いのうた」などいっぱいあります。よかったらぜひ♡

新婦人 フェスタ



「新婦人の、ここが好き！
ここがいいね！」

2017年3月12日(日) 10時～15時

たんぽぽ保育園にて **開催決定!**

- いろいろな小組のステージ発表や展示あり★
- 甘酒、ぼた餅、マフィンなどの甘味処、お昼ごはんのおかずのお店出まーす★
- 物品販売もあり★ 詳しいは来月号で♡



<たんぽぽ保育園>

浜松市中区上島 2-13-35
TEL 053-474-2780

お問い合わせは園ではなく支部 TEL 464-9891
までして下さい。

「新婦人ってなに？」

新婦人(新日本婦人の会)は1962年10月19日に、結成されました。今現在、全国に会員がいる日本でもっとも大きな女性団体(個人加盟)であり、国連NGOとして、国際的な視野で活動を広げています。今回は、会の創立のよびかけ人の3人の女性にスポットをあてます。



「平塚らいてう(らいちょう)」 婦人運動家・評論家・作家



1886年(明治19年)東京生まれる。戦前と戦後にわたり婦人運動の指導者で、後年は平和運動にも関わった。



時代はまだまだ女性にとって厳しく、「女子には学問は必要ない」とらいてうもお父さんに言われます。それを説得して、大学に入学！強い女性です♡

女性運動や平和運動のパイオニア！



なかなか美んで、恋愛にも自由な心を持っていたらしい。心中未遂事件を起こすが、新聞にある事ない事を面白く書かれ...でも、それを機に「性差別」や「男尊女卑」の社会で抑圧された女性の自我の解放に力を入れていくように！



作家としては、日本で最初の女性による女性のための文芸誌「青鞥」を創刊。与謝野晶子が詩を書いたり新しい女性の時代を感じさせる内容だった。メンバーは、とても元気な女性ばかりだけど、「一番元気で、ビールを1番飲むのもらいちょう」だったらしい♡

「若いつばめ」の由来はらいてう♡ 年下の男性の恋人をこう呼ぶのは、らいてうが恋人と別れる時に、言われた言葉。それが当時流行語に♡



「野上 弥生子(のがみ やえこ)」 小説家

1885年(明治18年)大分県に生まれる。14歳の時に上京し、明治女学校に入学。夏目漱石の門下の野上豊一郎と結婚する。「ホトギス」に「縁」を掲載して作家デビュー。以来、死去するまで、現役作家として活躍する。享年99歳。

70余年という世界にも類例のない長期の現役作家だった人！



弥生子は、法政大学女子高等学校名誉校長も務め、「女性である前にまず人間であれ」の言葉を残しています。素敵な言葉であれ♡

<代表作>
「真知子」「迷路」「森」「香吉と利休」

「いわさきちひろ」 画家・絵本作家



1918年(大正7年)福井県に生まれる。つねに「子どもと平和」をテーマに絵を描き続けた。



当時の日本では、絵本というものは文が主体。絵は文があつたものと考えられていたが、ちひろ達が変えていったのです。

長野県北安曇郡に「安曇野ちひろ美術館」がある。

小さい頃から、絵がうまいと評判だったちひろ。実は、運動神経もよく、スキー・水泳、登山などをこなすスポーツウーマンだったとのこと。

事情があつて、子供を遠くへ預けたちひろは、子供に会う時、ちゃんと乳が出るように、近所の赤ちゃんに授乳させてもらっていた。その赤ちゃんは、コメディアンの子三宅裕司さんだった。



<代表作>
<絵>「おにたのぼうし」「おふくでちやぶ」「窓ぎわのトットちゃん」他
<絵と文>
「あめのひのおるすばん」「あかちゃんのくるみ」「こどりのくるみ」「戦火のなかの子どもたち」他